

豊中市立文化芸術センター

プレスリリース

ヤノシュ・オレイニチャクピアノリサイタル



日時：2018年11月3日（土・祝）

会場：豊中市立文化芸術センター 大ホール

出演：ヤノシュ・オレイニチャク、浦久俊彦(ナビゲーター)

【曲目】 オール・ショパン・プログラム

ポロネーズ 第3番 イ長調 作品40《軍隊》

ノクターン 第20番 嬰ハ短調《遺作》

4つのマズルカより第1番、第2番 作品24-1,2

バラード 第1番 作品23、ポロネーズ 第6番 変イ長調 作品53《英雄》 他

【本リリースに関するお問合せ先】 豊中市立文化芸術センター（豊中市市民ホール指定管理者） 担当：井上

電話：06-6864-3901（代表 | 9:00~20:00 | 月曜休館）

FAX：06-6863-0191 E-mail：info-bungei@toyonaka-hall.jp

豊中市立文化芸術センター

プレスリリース

ショパンの化身と謳われたポーランドの巨匠。

「ショパンを聴く。世界が彩づく」— このショパンは、あなたをかえる魔法の音楽



ポーランドを代表するピアニストであり、現代最高のショパン弾きと称されるヤノシュ・オレイニチャク。昨年の来日公演では、各所で完売。その円熟の妙技と魂の響きで大きな感動を生みました。演奏会後もブラボーが続き、スタンディングオベーション。サイン会も長蛇の列となりました。

本年のツアーでは関西唯一の公演となる豊中市立文化芸術センター。仲道郁代出演のピアノ開き以来、主催公演では久々となるピアノリサイタルです。今回は「サロンのショパン」をテーマとしたオール・ショパン・プログラムで、バラード1番や、《軍隊ポロネーズ》、《英雄ポロネーズ》、《レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ》など、オレイニチャクならではの軽妙なセンスで選り抜かれた珠玉の名曲たちを演奏します。普段聴きなれたショパン作品も、オレイニチャクの演奏を聴くと、まるで魔法にかかったような新しい感動を生みます。アルゲリッチ氏もオレイニチャクの演奏を聴いて「あなたのショパンを聴いて、これから自分はショパンをどう演奏すればいいのかわかった」と言ったとの話ものこっており、まさに現代最高のショパン弾きのひとりと言っても過言ではないでしょう。

大ホールのゆったりとシートでたっぷりと堪能できるヤノシュ・オレイニチャクのピアノリサイタル。ショパンの魂の旋律をどうぞご期待下さい。

豊中市立文化芸術センター

プレスリリース



©THE PIANIST Focus Features 映画「戦場のピアニスト」ポスターより

あの映画「戦場のピアニスト」の感動が、再び甦る—

オレイニチャクは2002年にアカデミー賞を受賞した映画「戦場のピアニスト」でピアノ音楽と演奏シーンのすべての演技をしたことでも知られています。クライマックス、潜伏先でドイツ軍将校にみつかった主人公は、ピアノ演奏するように求められる。生か死か緊迫する情景の中で、その指先から零れ落ちる痛切で誇り高きショパンのバラード。オレイニチャクの生んだ真実の音が、このシーンを映画史に残る不屈のものとなりました。

そのオレイニチャクが演奏した、バラード1番《遺作》も、今回のツアープログラムには含まれています。魂の響き。ぜひ、その響きを心に焼き付けてください。

公演詳細

ヤノシュ・オレイニチャク ピアノリサイタル

日時 | 11月3日(土・祝) 15:00開演(14:30開場)

出演 | ヤノシュ・オレイニチャク(ピアノ)、浦久俊彦(ナビゲーター)

料金 | 一般 S席 ¥3,500 A席 ¥2,500 学生半額

※未就学児入場不可

曲目 | オール・ショパン・プログラム

第1部終了後にクロストークがございます。テーマ：ポーランド人からみたショパン など

豊中市立文化芸術センター

プレスリリース

プロフィール



ヤノシュ・オレイニチャク

現代ポーランドを代表するピアニストであり、現代最高のショパン弾きでもある。弱冠18歳（当時最年少）で第8回ショパン・コンクールに入賞、一躍脚光を浴びる。その後、さらなる研鑽を積むためにパリに留学。アルトゥール・ルービンシュタインにも師事した。その活躍は、ヨーロッパを拠点に、アメリカ合衆国、カナダ、南米、オーストラリア、アジア、インドなど世界各国に及び、彼の多彩な才能は、映画の分野

でも発揮されている。ショパンの晩年を描いたフランス映画『ラ・ノート・ブルー』（ズワフスキー監督）では、ショパン役に抜擢され、ソフィー・マルソーなど一流俳優たちと共演。2002年度のアカデミー賞受賞作『戦場のピアニスト』（ロマン・ポランスキー監督）では、すべてのピアノ演奏と、手のみの迫真の演技が絶大な評価を浴びた。テレビへの出演も多く、ショパン没後140年の1989年に制作された、NHKスペシャル『私のショパン』（ポーランド・日本共同制作）では、ショパン役として出演している。

レコーディングも、これまでに40タイトル以上をリリースしている。シンフォニア・ヴァルソヴィアとの『ショパンピアノ協奏曲集』が「フレデリック95ポーランド大賞」を受賞するなど受賞歴も多い。ポーランド・ナショナルエディションの『ショパン全集』、ポーランド国立ショパン協会監修の『ザ・リアル・ショパン』プロジェクトで中心的な役割を果たすなど、ショパンの遺産を継承する真摯な活動に対し、ポーランド政府から表彰も受けている。エラール、プレイエルなど19世紀フォルテピアノの名手としても知られ、フランス・ブリュッヘン指揮、18世紀オーケストラと共演した「ショパン生誕200年記念スペシャルバースデーコンサート」のライブ映像は、全世界でDVDも発売された。近年のショパン国際ピアノ・コンクール審査委員の常連メンバーであり、2018年秋にポーランド独立100周年を記念してワルシャワで開催される、ピリオド楽器による第1回ショパン国際ピアノ・コンクールの審査委員にも選出されている。ショパンの遺産を次世代に継承するため、2015年秋以降、ワルシャワ国立ショパン音楽院の教授もつとめている。

日本には、1988年ワルシャワ放送管弦楽団のソリストとしての初来日以降、数度に渡って日本ツアーを行い、東京、横浜、名古屋、福岡など主要都市での公演は、いずれも絶賛を浴びた。2009年には、横浜みなとみらいホールで全4回にわたるショパン・プロジェクトを行い、連日観衆を魅了した。2017年1月、7年振りとなる日本ツアー（東京、金沢、兵庫、群馬、静岡）を行い、「サロンのショパン」というコンセプトによる、固定された演奏プログラムではなく、あえて観客との自由な空気感のなかで即興的にプログラムを選ぶというサロン・スタイルの公演は、観衆の圧倒的な共感と感動を呼んだ。

【本リリースに関するお問合せ先】

豊中市立文化芸術センター（豊中市市民ホール指定管理者）担当：井上

電話：06-6864-3901（代表 | 9:00~20:00 | 月曜休館） FAX：06-6863-0191

E-mail：info-bungei@toyonaka-hall.jp